



町長日誌

No.251

町長日誌の第251号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆様のご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

9月19日（木曜日）PM3:00

定例議会1日目が先ほど終わりました。今回の町長日誌は南米訪問パラグアイ編とさせていただきます。

8月19日（月曜日）～30日（金曜日）【12日間】

北海道南米（ブラジル・パラグアイ）訪問団に北海道町村会の代表として参加しました。1908年（明治41年）に笠戸丸で神戸港から781人の移民団がブラジルに入植しました。それから100年間で26万人の日本人が移住し現在200万人の日系人がブラジルに暮らしています。また、パラグアイには1939年（昭和14年）ごろから移住が始まり現在約1万人の日系人が暮らしています。今年は移民開始後ブラジル105周年、パラグアイ85周年を祝い、北海道人会主催の記念式典が行われることから、北海道は訪問団を結成することとなりました。新千歳出発→成田→ドバイ→サンパウロという行程で40時間を超える移動です。時差はサンパウロが日本より12時間遅くなります。まず、サンパウロに入り一泊して次の日に飛行機で2時間かけてパラグアイのアスンシオン空港に移動しパラグアイの北海道人会の皆様と交流を行いました。ブラジルでも同様ですが日本語が通じること、日本食が出ることが何よりもありがたいことでした。

パラグアイの行程

- 21日 中谷好江駐パラグアイ大使訪問、観光庁物産館で観光部長らと意見交換
北海道主催の夕食会
- 22日 道人会の拠点である「ハマナス会館」で移住85周年祝賀会
商工会議所・若手道人会・道人会役員との懇談会、歓迎夕食会
- 23日 朝7時出発で4時間かけてイグアス移住地へ移動（最も移住者が多い）
先没者慰霊碑参拝、アルトパラナ県道人会の歓迎昼食会、イグアス日本語学校訪問、イグアス道の駅（日本の道の駅を参考に政府が支援）訪問
バスで国境を越え（厳しい検問）ブラジルに入りホテル泊



以上、3日間パラグアイ訪問スケジュールです。21日の夕食会で私は佐々木広一さん（73歳）と席が同じになりました。佐々木さんはイタプア道人会の会長で昭和32年、7歳の時に家族と移住。私が生まれた年です。現在は息子さんが経営を継承し、300haの農地で養鶏と小麦や大豆栽培をされています。私も農家ということで農業談議に花が咲きました。パラグアイの大地は真っ赤な赤土です。赤土は水はけが悪く、風が吹けば飛ぶ土です。リン酸を植物に供給しない性質があるため入植時は水のある低みにコメを植えたのですが実が入りません。リン酸成分がないと実らないのです。仕方なく高台に移転しました。そこは落ち葉が堆積して腐葉土になっていたの、日本から味噌を作るうと持って行った大豆がとてもよく実ったことで命を繋ぐことが出来たそうです。しかもこの大豆が今日までの80年間パラグアイ輸出品の第1位となり日本移民の評価は不動のものとなったのです。パラグアイはブラジルと異なり旧スペイン領で先住民グアラニー族とスペイン人の混血が大半を占めています。言葉もスペイン語とグアラニー語が公用語で、パラグアイとは言わず「パラウアイ」と現地では発音していました。主要農産物となった大豆も近年は価格が低迷しており、イグアス農協組合長の大西ホルヘさんは「新たにゴマの栽培を取り入れているが手間がかかるため若い農家がやりたがらない！」と嘆いていました。また、イグアス日本人会会長の堀田利幸さんは「私たちは祖国日本を誇りに思っパラグアイで頑張ってきた。ところが最近、中国資本でロシアのシベリアで早生大豆の栽培試験を日本の大学教授が技術提供して取り組んでいる。私たちのことをどう思っているのか？なぜ日本政府は止めないのか？」と厳しいお話を伺いました。堀田さんは長年農業指導をされてきた方ですからパラグアイ日系人の将来を思う時、「私たちの事を故郷日本が忘れないでほしい！」と言われているような気持ちになりました。

次回は、ブラジル編を書きたいと思います。では、また。

お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など（使い古しのもので構いません）に入れ、封をして、役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務係まで。TEL 82・2131です。